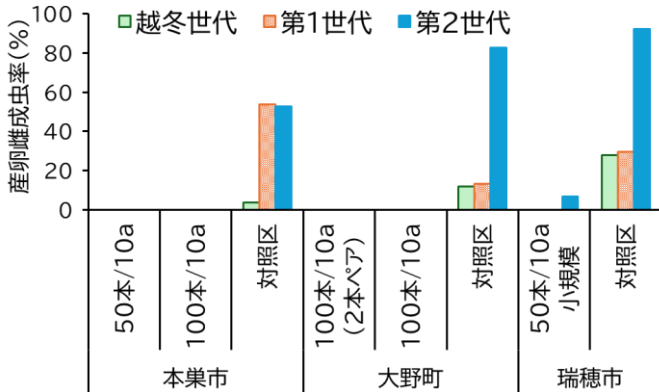


交信攪乱剤による フジコナカイガラムシの防除技術を開発しました

カキの重要害虫フジコナカイガラムシに対し、性フェロモンを有効成分とする交信攪乱剤を用いた防除技術を開発しました。4月に交信攪乱剤を枝に巻き付けるだけで栽培期間を通じた効果が得られ、農薬飛散の心配がなく、防除作業の負担が軽減できます。



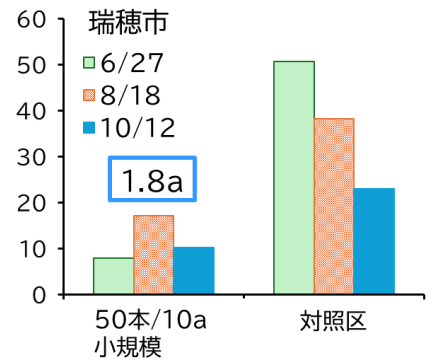
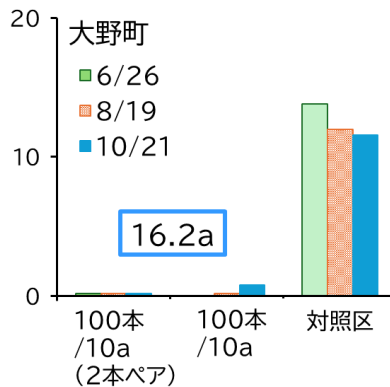
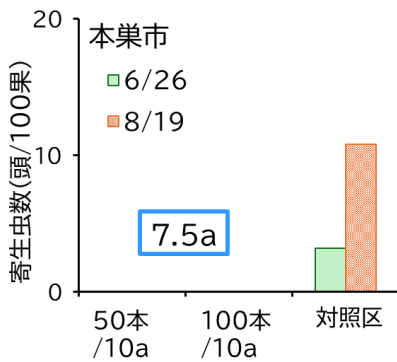
フジコナカイガラムシ被害「すす病」



交信攪乱剤(ディスペンサー)の設置
高さ1.5mほどの枝に巻き付けます

交信攪乱剤設置による交尾阻害効果

交信攪乱剤の設置で交尾が阻害され、雌成虫が産卵しません(次世代が増えません)



交信攪乱剤設置によるフジコナカイガラムシに対する防除効果

交信攪乱剤を設置することで、フジコナカイガラムシ寄生虫数が化学農薬による慣行防除(対照区)より大幅に減少します

(研究成果)

- ・交信攪乱剤(ディスペンサー)を目通りの高さ(地上1.5m程度)の枝に巻き付けるだけなので、省力的で女性や高齢者も容易に作業できます。
- ・ディスペンサーを4月中旬に50~100本/10a設置することで交信攪乱が起き、雄成虫は雌成虫の位置を特定できなくなり、交尾が阻害されます。雌成虫は交尾しないと産卵できないため、次世代以降の密度が低下します。
- ・ディスペンサーを4月中旬に設置すると、栽培期間を通して果実への寄生虫数が大幅に減少し、化学農薬による慣行防除と比べ高い防除効果が得られます。
- ・フジコナカイガラムシの交信攪乱剤は、令和7年12月に農薬登録され、「フジコナコン®」として2026年春から販売されます。